

特集

「臨床判断モデル」の さらなる展開

基礎教育から臨床、訪問看護の現場まで

クリスティーン・タナー先生が2006年に発表した論文「Thinking Like a Nurse: A Research-Based Model of Clinical Judgment in Nursing」において、看護師の臨床判断がモデルとして表現されました。網羅性よりも、看護師のその場、そのときの思考に着目したこのモデルは、米国でも大きな影響力をもち、変遷を経て、米国看護師国家試験NCLEX-RNの出題形式の基盤ともなっています。

日本でも紹介が進むとともに受容が広がり、さまざまなレベルでの活用が広がっています。

本特集では、このモデルの意義を再確認するとともに、基礎教育や現場でのさまざまな活用事例、また、2022年に新たに示されたモデルの改変ポイントについても解説いただきます。

